

目次

●言語と芸術（工芸）	1
●言語と芸術（構成・デザイン）	2
●言語と芸術（作家における生と死）	3
●言語と芸術（彫刻の世界）	4
●言語と芸術（音楽理論）	5
●言語と芸術（詩と音楽の理解～歌曲研究）	6
●言語と芸術（長崎の音楽文化活動）	7
●言語と芸術（日本の言語）	8

2010年度 前期	曜日・校時 月1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003001 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(工芸) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 1 2 4	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 菅野 弘之 / kankan@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部美術技術棟205 / / 前期火曜12時から12時30分			
担当教員(オムニバス科目等)	菅野 弘之		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 感性へ意識を傾注し、制作や発表、レポートを通して感じたことについて作品と言葉を使って表現できる。 授業方法(学習指導法): 感性—感じる—について 様々な方法や工夫、科学的な原理があることを学ぶ。実際に竹等を使って制作すること(手で考えること)によって五感と言葉の相互関係を思考し、発表・鑑賞会を行いレポートにまとめ提出する。感性を表現することについての表現能力について実際の自分の感覚を通して学習する。 到達目標: 1.感じる—ことへの意識を高める。2.発表や制作、レポートを通して、手工具を使って作る工芸玩具について、制作過程において素材から感じたことや道具から感じたことについて説明出来る。3.他の人の作品や伝統工芸作品を鑑賞し、感じ方や創意工夫の多様性を涵養する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 ※第1回目の授業は、4月12日(月)から行う。第1回目の授業で受講希望者が40名を越えた場合、抽選を行い受講者を決定する。詳細は受講要件参照。 ・授業説明、今まで習ってきた図画工作、美術・工芸の授業をふり返って 第2回 ・伝統工芸、玩具について 例 独楽 凧 第3回 ・竹とんぼのデザインを考えよう 第4回 ・飛ぶ原理と感性 第5回 ・道具と素材から感じ取る1 第6回 ・道具と素材から感じ取る2 第7回 ・道具と素材から感じ取る3 第8回 ・中間発表 第9回 ・道具と素材から感じ取る4 第10回 ・道具と素材から感じ取る5 第11回 ・道具と素材から感じ取る6 第12回 ・道具と素材から感じ取る7 第13回 発表会(鑑賞会) 第14回 レポート作成(竹とんぼとブンブンゴマの写真貼付) 第15回 まとめ (レポートの提出)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各自準備する道具として、鞆付の切り出し(カッターナイフ禁止)、サンドペーパー、新聞紙等、教材の「竹」については授業時に説明		
成績評価の方法・基準等	レポート100点		
受講要件(履修条件)	ナイフ等を使用するため第1回目の授業で受講希望者が40名を越えた場合抽選をし受講者を決定します。この場合、1回目の授業に出席した学生で抽選し、受講者を決定するので希望者は必ず出席して下さい。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	7月30日(金)は予備日になっております。この日は、授業を行います。		
備考(準備学習等)	予習分として、自主制作でブンブン独楽を制作してもらいます。詳細は授業時に説明		

2010年度 前期	曜日・校時 火2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003002 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(構成・デザイン) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 織田 芳人 / m-oda@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部美術技術棟 2階 207番研究室 / / m-oda@nagasaki-u.ac.jp (要予約: 水曜日 9:20~10:20)			
担当教員(オムニバス科目等)	織田 芳人		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 色に関する基礎知識を習得し、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえて、紙という素材を利用した基礎的な造形表現の方法を習得することをねらいとする。 授業方法(学習指導法): 資料提示によって学習すべき知識や造形作品の制作方法を理解した上で、実際の素材(トーンカラーや方眼カラードフォルムなど)を使用して、知識の確認および制作を行う。 到達目標: 色に関する基礎的な説明ができる。また、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえた基礎的な造形表現ができる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 構成は美術・デザインに共通する色や形の造形要素を掘り下げることによって、造形の原理を追求する分野である。またデザインは、ものの使いやすさ、美しさ、楽しさを考えて生活に役立つ造形品をつくり出ししていく活動である。そこで本授業では、色、平面構成、立体構成・デザインに関する知識と、それらを活かした基礎的な造形表現を学ぶ。			
第1回 4月13日 授業の概略および必要な道具類の説明 第2回 4月20日 色相環・補色残像 第3回 4月27日 トーナルカラー(色紙)による混色 第4回 5月11日 「切る+滑らせる」操作による平面構成 第5回 5月18日 立方体の変った展開図 第6回 5月25日 立方体の変った展開図(続) 第7回 6月1日 飛び出すカード 第8回 6月8日 飛び出すカード(続) 第9回 6月15日 切り起こし 第10回 6月22日 切り起こし(続) 第11回 6月29日 フェナキストスコープ 第12回 7月6日 フェナキストスコープ(続) 第13回 7月13日 アイソ・アクシス 第14回 7月20日 アイソ・アクシス(続) 第15回 7月27日 アイソ・アクシス(続)、筆記小試験およびリポート提出			
キーワード			
教科書・教材・参考書	トーナルカラー(色彩学習用の色紙) 方眼カラードフォルム(片面方眼付の色工作紙) 白ケント紙(A4判)等		
成績評価の方法・基準等	(1) 全課題(造形作品等)提出 40% 課題条件を満たしているか、制作作業がていねいか等を評価します。 (2) 全課題についてのレポート提出 30% ワードソフトを使用し、全課題の写真画像(プリント貼付でも可)を挿入して、各課題に関するコメントを記したものを。 (3) 筆記小試験 20% (4) 授業への参加態度 10% 授業へ積極的に参加したかを評価します。		
受講要件(履修条件)	実技を伴うので、受講者を40名までとします。(受講希望者が多い場合は抽選にします。) 第1回に道具類の説明をしますので、第2回から道具類を用意して受講してください。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 水3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003003 授業科目/(英語名)	●言語と芸術（作家における生と死） Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 321	
対象学生(クラス等)		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 山本 建雄 / / 教育学部 623 / 819-2300 / 水曜 II			
担当教員(オムニバスキ目等)	山本 建雄		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: ・授業の中で取り上げた個々の作家の生、創作と死生観の関わり について理解できる。 ・個々の作家の死生観と受講者のそれとを関係づけ、自己の死生 観の充実に役立てることができる。 ・受講者相互に、作家の死生観の理解や自己の死生観について意 交換ができる。 ・授業で取り上げなかった作家の生、創作と死生観との関わりに ついて理解を広げられる。 授業方法(学習指導法): ・作家の生、創作と死生観との関わりについて、文献を用い授業 者が講義する。 ・授業で取り上げた話題について、受講者が意見・感想を記述し たり、話し合ったりする。 ・受講者が、関心のある作家について、生、創作と死生観の関わ りを調べ、発表する。 到達目標: ・個々の作家の生、創作と死生観との関わりについて、簡明に表 現できる。 ・作家達の死生観を踏まえつつ、受講者自身の死生観について文 章化や、話し合いができる。 ・自分の関心に従い調べた作家の死生観について、分かり易い紹 介ができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 4月14日日本授業の目的、内容、方法等についての概略の説明。 第2回 4月21日生と死を巡る今日的状況と受講者の問題意識の確認。 第3回 4月28日正岡子規における場合。 第4回 5月12日夏目漱石における場合。 第5回 5月19日芥川龍之介における場合。 第6回 5月26日森鷗外における場合。 第7回 6月2日樋口一葉における場合。 第8回 6月9日石川啄木における場合。 第9回 6月16日宮沢賢治における場合。 第10回 6月23日芥藤茂吉における場合。 第11回 6月30日高村光太郎における場合。 第12回 7月7日金子みすずにおける場合。 第13回 7月14日遠藤周作における場合。 第14回 7月21日作家の死生観を踏まえた自己の死生観を巡る話し合い。 第15回 7月28日関心に従い調べてきた作家の死生観について記述。			
キーワード	近現代の作家 死生観 創作 生き方 死		
教科書・教材・参考書	・教材は、毎回授業者が用意する。 ・授業の中で取り上げた作家及び作品については、 関連する新書、文庫を用い理解を広げる。 ・参考となるものについては、授業の中で随時紹介 する。		
成績評価の方法・基準等	・授業内容の理解度を評価する為に、小テストを 4, 5回実施する。 ・話し合いの折には、経過と成果について報告を各 自に求める。 ・上記の評価を総合して、本授業の評価とし、6 %以上の達成度をもって合格とする。		
受講要件(履修条件)	・終わりの15回まで受講する意志があること。 ・授業終了までに、関係する図書を3冊以上読む意 志があること。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	文学と死生観の学習の両面にわたる。		
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 金4	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003004 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(彫刻の世界) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等) 全学部・留学生 50名限定	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 佐藤 敬助 / keisuke@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部美術技術棟 102号室 / 095-819-2349 / 毎週水曜日午後1時30分~2時30分事前アポイントの事			
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤 敬助		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 立体(彫刻の世界)を通してその現実の日常空間を見つめながら、その素晴らしさを享受できるようにする事を目的として、小さな軟石を削ったり磨いたりしながら作品制作をしながら生活の中の豊かさを見つめてみたい。 授業方法(学習指導法): 講義及び実際の作品(石を彫ったり削ったり磨いたり)制作。また、彫刻の作品鑑賞も含む。 到達目標: 彫刻の作品鑑賞や作品制作を通して立体的な感性についての理解を深め、その感性を内包する自身の分析の一端をできるようにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 概要: 日常の生活空間は3次元であるはずなのに、その生活に対する意識の大半は2次元の要因を元にして営まれているといっても過言ではないようである。そこで、この授業においては、比較的やわらかい石を彫ったり削ったりして出来上がる「EXLIBRIS(蔵書印)」の制作を通してその現実の日常空間を見つめながら、その素晴らしさを享受できるようにすることを目的としながら、生活の中の豊かさを考えてみたい。 第1回 ガイダンス・授業進行予定・彫刻の見方・美術の鑑賞の仕方的一端について 第2回 長崎市の彫刻の鑑賞・彫刻というものの制作の過程 第3回 「EXLIBRIS」とは 第4回 石材を手にしながらの着想とアイデアスケッチ 第5回 EXLIBRISの制作開始 第6回 EXLIBRISの制作 第7回 EXLIBRISの制作 第8回 EXLIBRISの制作 第9回 EXLIBRISの制作 第10回 EXLIBRISの制作 第11回 EXLIBRISの制作 第12回 EXLIBRISの版面の制作 第13回 EXLIBRISの版面の制作 第14回 EXLIBRISの印刷 第15回 EXLIBRISの印刷と作品提出および全授業のまとめ			
キーワード	彫刻(美術)の鑑賞と制作		
教科書・教材・参考書	必要に応じて資料を配布。5回目以降、制作に必要な用材と道具を必要とします。また、教材費として一人2000円程度かかる見込みですので、準備をお願いいたします。また道具として、鉄鋸・5寸釘1-2本・彫刻刀・マイナスのドライバー・紙やすり100番・180番・新聞紙一朝刊分程度・軍手も準備してください。		
成績評価の方法・基準等	提出作品画像45枚・レポート45枚・授業への積極的な取り組み状態10枚		
受講要件(履修条件)	履修者多数の場合は、授業前に抽選をします。その抽選等の連絡掲示に注意してください。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	授業の中で作業をともなうかたちとなるため、汚れを防ぐもの(エプロン等)を各自で準備してください。		

2010年度 後期	曜日・校時 火3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003006 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(音楽理論) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 三上 次郎 / mikami@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部音楽棟3階 / 095-819-2344 / 火曜日2限			
担当教員(オムニバス科目等)	三上 次郎		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 楽譜に関する基本的な知識を理解する。音楽理論の基本部分について理解を深める。 授業方法(学習指導法): 單元ごとに講義と演習とを行う。演習課題終了後は自己採点を行い課題を提出する。添削後の課題の提出も評価の対象とする。 到達目標: 楽譜についての基本的内容が理解できるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 音名は日本音名とドイツ音名を扱う。調性は調の表記と旋律の調性判断を含む。それぞれに演習課題に取組み、理解を深める。 第1回 10月5日: 音楽理論の概要 第2回 10月12日: 譜表と音名について 第3回 10月19日: 音程について1(基本音程) 第4回 10月26日: 音程について2(増減を含む音程) 第5回 11月2日: リズムと譜割について 第6回 11月9日: 音階と調について 第7回 11月16日: 短調の音階について 第8回 11月30日: 音階の構成音について 主音や属音などの音階の構成音の種類について学習する。 第9回 12月7日: 調性と調関係について 第10回 12月14日: 調性判断について 第11回 12月21日: 三和音の構成について 第12回 1月11日: 和音の度数と、主要三和音について 第13回 1月18日: 三和音のコードネームについて 第14回 1月25日: 7の和音のコードネームについて 第15回 2月1日: 特殊なコードネームの表記について			
キーワード	音楽、音楽理論、楽典		
教科書・教材・参考書	基本的にプリントを配布。 参考書として 川辺 真著「わかりやすい楽典」音楽之友社		
成績評価の方法・基準等	出席30% 各時間の演習添削プリントの提出20% 総括試験50%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003005 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(詩と音楽の理解～歌曲研究) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 宮下 茂 / miyamo@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部 音楽棟 2階 204号室 / 819-2345 / Eメールでの質問又は研究室前質問受付時間掲示参照			
担当教員(オムニバス科目等)	宮下 茂		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 本科目は、ドイツと日本の歌曲を取り上げ、詩と音楽、音楽描写等により、音楽と人、芸術と人との関わりを知り、詩と音楽、詩人と作曲家への理解を深めることを目的とする。 授業方法(学習指導法): 配布資料を基に授業内容の解説を行い、同時に詩や音楽の視聴を行い、それらの理解を深めるよう展開する。 到達目標: 詩と音楽、詩人と作曲家への理解等、授業内容を理解し、授業内容に対する自身の考えを持ち、自身の考えを述べる。又は授業内容に対する疑問を述べるができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 10/6 季節の歌～春 第2回 10/13 ドイツ歌曲の歴史 第3回 10/20 「歌、歌曲、オペラ、声楽…」～言葉の違いⅠ 第4回 10/27 「歌、歌曲、オペラ、声楽…」～言葉の違いⅡ 第5回 11/10 シューベルトの詩と音楽/ドイツ語について 第6回 11/17 詩は言葉の音楽 第7回 11/24 詩人と作曲家 第8回 12/1 文学的意味と音楽的表現Ⅰ～旋律について① 第9回 12/8 文学的意味と音楽的表現Ⅱ～旋律について② 第10回 12/15 文学的意味と音楽的表現Ⅲ～律動について 第11回 12/22 文学的意味と音楽的表現Ⅳ～和声について 第12回 1/12 文学的意味と音楽的表現Ⅴ～自然描写について 第13回 1/19 詩の形式と音楽の形式～有節形式と通作形式 第14回 1/26 ロマン派歌曲の魅力～ロマン派歌曲を振り返って 第15回 2/2 全授業の総括			
キーワード	歌曲 声楽 クラシック 音楽		
教科書・教材・参考書	授業計画に沿い、詩、訳詩等のプリント資料を配布する。音楽の視聴は、CD、DVD、生演奏(歌とピアノ)を活用する。		
成績評価の方法・基準等	毎回提出の授業レポートを評価する。(授業内容の理解・疑問、詩と音楽への理解・疑問、自身の考え等を提出。授業レポートの内容によっては、提出状況に関わらず評価を得ない場合があります。)		
受講要件(履修条件)	教室の座席定員が36名のため、最大受講者数を36名とします。その為、第1回の授業の先着36名で受講を締め切る場合があります。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003007 授業科目/(英語名)	●言語と芸術(長崎の音楽文化活動) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等) 主対象、1年	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 堀内 伊吹 / horiuchi@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部音楽棟2階206 / 095¥819-2343 / 水曜日 5時間目			
担当教員(オムニバス科目等)	堀内 伊吹		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 長崎の音楽文化活動の実態を概観し、実際に文化ホールに出かけ、音楽鑑賞を行う。 授業方法(学習指導法): 視聴覚機器を活用しての講義とホールに出かけての演習。 到達目標: 音楽文化を取り巻く状況が理解でき、実際の演奏会を鑑賞し、生の演奏に触れる喜びを感じ取ることができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 10/6:この授業の進め方、ガイダンス 第2回 10/13:長崎の音楽文化事情について①「文化ホールの自主文化事業」 第3回 10/20:長崎の音楽文化事情について②「ながさき音楽祭の行方」 第4回 10/27:長崎の音楽文化事情について③「マダム・バタフライコンクールと国際交流」 第5回 11/10:文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう① 第6回 11/17:日本各地の音楽祭について「サイトウ・キネンから上野の春まで」 第7回 11/24:新しい音楽のカタチ「映像と音楽」 第8回 12/1:音楽のジャンルと時代様式について 第9回 12/8:文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう② 第10回 12/15:クラシック、楽々入門「ピアノの詩人、ショパンの音楽」 第11回 12/22:リーディング&音楽の魅力「お話と音楽の世界」 第12回 1/12:比較する楽しみ「音楽聴き比べのススメ」 第13回 1/19:文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう③ 第14回 1/26:長崎の音楽文化はどうなるのか 第15回 2/2:音楽で語ること、音楽を語ることについて			
キーワード	音楽文化、文化ホール、自主文化事業、音楽祭		
教科書・教材・参考書	岡田暁生著「音楽の聴き方」(中公新書) 養老孟司、久石譲著「耳で考える」角川 ONE テーマ 21		
成績評価の方法・基準等	推薦する3つの演奏会から2つを選択し、自分の意見を交えた音楽鑑賞レポートを提出。レポートによる評価を行う。		
受講要件(履修条件)	心を静めて音楽鑑賞ができること		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	芸術的な感性の開発、音楽を聴くための基礎トレーニング		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 木2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566003008 授業科目/(英語名)	●言語と芸術 (日本の言語) Language and Art		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 201	
対象学生(クラス等)		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 池田 幸恵 / yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp / 環 406 / 819-2738 / 木曜日 14:30-16:00			
担当教員(オムニバス科目等)	池田 幸恵		
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 ねらい: 現代日本語に興味を持ち、日本語に関する理解を深める。 授業方法(学習指導法): 毎回、出欠確認票兼質問用紙を配り、次週その質問に答える形で講義を進める。視聴覚教材を使用する場合もある。 到達目標: 敬語が正しく使える。敬語の誤用を訂正できる。正しい日本語表記ができる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 現代日本語に関する諸問題について、敬語・方言・表記などのテーマごとに講義する。			
第16回 定期試験 第1回 10/7:オリエンテーション 第2回 10/14:敬語に関する世論調査 (1) 第3回 10/21:敬語に関する世論調査 (2) 第4回 10/28:敬語の正用・誤用 第5回 11/4:敬語のまとめ 第6回 11/11:方言 (1) 方言の歴史 第7回 11/18:方言 (2) 方言と共通語 第8回 11/25:方言 (3) 方言の研究 第9回 12/2:方言 (4) 長崎県の方言 第10回 12/9:方言 (5) 方言地図をよむ 第11回 12/16:日本語表記の諸問題 (1) 現代仮名遣 第12回 1/6:日本語表記の諸問題 (2) ローマ字表記 第13回 1/13:日本語表記の諸問題 (3) 漢字政策 第14回 1/20:現代語の諸問題 (1) 若者言葉 第15回 1/27 現代語の諸問題 (2) 外来語			
キーワード	日本語 方言 敬語 表記		
教科書・教材・参考書	教科書:プリントを配布する。 参考書:沖森卓也他『図解日本語』(三省堂、2006)		
成績評価の方法・基準等	定期試験 70%、提出した質問用紙の質 30%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			